

高齢者用肺炎球菌感染症 予防接種説明書

肺炎球菌について

肺炎球菌感染症とは、肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気です。この菌は、主に気道の分泌物に含まれ、咳やくしゃみなどを通じて飛沫感染します。日本人の約5～10%の高齢者では鼻や喉の奥に菌が常在しているとされます。これらの菌が増殖し、下気道や血流中へ侵入することで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。

ワクチンについて

令和8年度より、定期接種で用いるワクチンが23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン(PPSV23)から、沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV20)に変更になりました。いずれも肺炎球菌に対するワクチンですが、20価ワクチンの方が、より高い有効性が期待でき、効果も長く維持されます。

沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV20)は、100種類以上ある肺炎球菌の血清型のうち、20種類の血清型を対象としたワクチンです。

この20種類の血清型は、成人侵襲性肺炎球菌感染症(※)の原因の約5～6割を占めるという研究結果があります。

※侵襲性感染症とは、本来は菌が存在しない血液、髄液、関節液などから菌が検出される感染症のことをいいます。

副反応について

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。

接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

主な副反応の発現割合	主な副反応
30%以上	疼痛・圧痛* (59.6%)、筋肉痛 (38.2%)、疲労 (30.3%)
10%以上	頭痛 (21.7%)、関節痛 (11.6%)
1%以上	紅斑、腫脹

※プレバナー20(ファイザー社)の添付文書参照

接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱(37.5度以上)のある人
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③ このワクチンの成分又はジフテリアトキソイドでアナフィラキシー^{※1}を呈したことがあることが明らかな人
- ④ その他、医師が不適当な状態と判断した人

◆過去に、肺炎球菌ワクチン(PCV20やPPSV23等)を接種したことがある人で、接種の必要がないと医師が認める方は定期接種の対象ではありません。

※1 アナフィラキシーとは、接種後30分以内に起こる、顔が腫れる、全身にじんましんが出るなどのひどいアレルギー反応のこと

予防接種を受ける際、注意しなくてはならない人

下記に該当する人は接種前に医師にご相談ください。

- ① 基礎疾患(心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害など)のある方
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱の見られた方および全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある方
- ③ けいれんの既往のある方
- ④ このワクチンの成分に対してアレルギーをおこすおそれのある方
- ⑤ 過去に免疫不全の診断がなされている方もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- ⑥ 過去にこのワクチンを接種したかどうか不明な方

他のワクチンとの同時接種・接種間隔

医師が特に必要と認めた場合は、他のワクチンと同時接種が可能です。

予防接種健康被害救済制度について

定期の予防接種の副反応により、医療機関で治療を必要としたり、生活に支障が出るような健康被害が生じたりした場合には、予防接種法に基づき救済を受けることができます。給付申請の必要が生じた場合は、感染症・医務薬務課までお問い合わせください。

*救済の適用を受けるにあたっては、健康被害が、予防接種によるものなのか因果関係(接種前後の他の感染症や要因等)を調査したのち、予防接種によるものと認定される必要があります。

接種後の注意事項

- ① 接種後30分間は、急な副反応が起こることがありますので、医師(医療機関)とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
 - ② 副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は注意しましょう。
 - ③ 入浴は差し支えありませんが、接種した部位を強くこすることはやめましょう。
 - ④ 接種当日は、激しい運動や大量の飲酒(それ自体により体調の変化を来す恐れがあるため)は避けましょう。
 - ⑤ 予防接種を受けた部位が赤くなったり、痛んだり、軽い発熱が起きることがあります。
- ※ 高熱、おう吐、けいれん、運動障害、その他の異常な症状があるときは、すみやかに、医師の診察を受けてください。

●問い合わせ先●

 **058-252-7187**
岐阜市保健所 感染症・医務薬務課